

# 学校において予防すべき感染症及び出席停止の期間について

第一種	病名	主症状	潜伏期間	感染経路	感染期間等	出席停止期間	備考
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ベスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限り)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限り)及び特定鳥インフルエンザ(感染症法(平成10年法律第114号)第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。以下において同じ)については、「 <b>治療するまで</b> 」、 <b>出席停止となる</b> 。 ※感染症法 第6条第7項から第9項までに規定する <b>新型インフルエンザ</b> 等感染症、 <b>指定感染症</b> 及び <b>新感染症</b> は、第一種の感染症とみなす。						
	<b>インフルエンザ</b> <b>特定鳥インフルエンザ</b> <b>及び新型インフルエンザ等</b> <b>感染症を除く</b>	高熱(39～40℃)、倦怠感、頭痛、腰痛、筋肉痛、のどの痛み、咳、鼻汁	平均2日 (1～4日)	飛沫 接触	発熱1日前から3日目を ピークとして7日目頃まで	発症した後(発熱の翌日を1日目として) 5日を経過し、かつ解熱した後2日 (幼児にあっては3日)を経過するまで	肺炎、脳症などの合併症に注意 ※抗ウイルス薬によって早期に解熱した場合も感染力は残るため、発症した後5日を経過するまでは出席停止
	ひやくにちせき <b>百日咳</b>	連続して止まらない咳が特徴	主に7～10日 (5～21日)	飛沫 接触	咳が出現してから 4週目頃まで	特有の咳が消失するまで、または 5日間の適切な抗菌薬療法が終了 するまで	生後3か月未満の乳児では、呼吸が出来なくなる 発作、脳症などの合併症に注意
	<b>麻疹</b> <b>(はしか)</b>	発熱、咳、鼻水、眼の充血、 口内の頬粘膜にコプリック斑 (白い斑点)、赤い発しん	主に8～12日 (7～18日)	空気 飛沫 接触	発熱出現前日から 解熱後3日を経過するまで	解熱した後3日を経過するまで	肺炎、脳炎などの合併症に注意 ※麻疹(疑い含む)と診断された場合は、 ただちに、学校(園)に連絡してください。
	りゅうこうせいじかせんえん <b>流行性耳下腺炎</b> <b>(おたふくかぜ)</b>	耳下腺・顎下腺・舌下腺などの 腫れ・痛み	主に16～18日 (12～25日)	飛沫 接触	耳下腺などの唾液腺が 腫れる1～2日前から 腫れた後5日後まで	耳下腺、顎下腺、または舌下腺の 腫れが発現した後5日を経過し、 かつ全身状態が良好になるまで	無菌性髄膜炎、難聴などの合併症に注意 思春期以降は、精巣炎、卵巣炎の合併あり
	ふう <b>風しん</b> <b>(三日はしか)</b>	淡紅色の発しん、発熱、 リンパ節の腫れ(頸部、耳の後ろ)	主に16～18日 (14～23日)	飛沫 接触	発しん出現7日前から 出現後7日目頃まで	発しんが消失するまで	妊娠20週頃までの妊婦がかかると、出生児の脳・耳・ 眼・心臓に先天異常を生じることがある ※風しん(疑い含む)と診断された場合は、 ただちに、学校(園)に連絡してください。
	すいとう <b>水痘</b> <b>(みずぼうそう)</b>	赤い発しん→水疱→膿疱(うみ)→ かさぶたの順に変化、 軽い発熱	主に14～16日	空気 飛沫 接触	発しん出現1～2日前から 全ての発しんがかさぶたに なるまで	全ての発しんが、かさぶたに なるまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意
	いんどうけつまくわつ <b>咽頭結膜熱</b> <b>(プール熱)</b>	高熱(39～40℃)、のどの痛み、 頭痛、食欲不振、 結膜充血、流涙、まぶしがかる	2～14日	飛沫 接触	ウイルス排出は、初期数日が 最も多いが、その後、便からは 数か月排出が続くこともある	発熱、咽頭炎、結膜炎などの 主要症状が消退した後2日を 経過するまで	※医師の許可があるまで、プールには入らない ※タオル等を共用しない
	しんがた <b>新型コロナウイルス</b> <b>感染症</b>	発熱、のどの痛み、呼吸器症 状等	1～14日	飛沫 接触	発症日の2日前から 発症後7～10日間程度	発症した後5日を経過し、かつ症 状が軽快した後1日を経過するま で	※「症状が軽快」とは、解熱剤を使用せずに解熱し、かつ 呼吸器症状が改善傾向にあることを指します。 ※出席停止解除後、発症から10日を経過するまではマス クの着用が推奨されます。
けつかく <b>結核</b>	咳、たん、微熱、倦怠感	2年以内、 特に6か月以内 (数十年後の 発症もある)	主として 空気	かく とまつ 喀たんの塗抹検査で 陽性の間	病状により医師において 感染のおそれがないと 認められるまで	家族内感染に注意	
ずいまくえんきんせいずいまくえん <b>髄膜炎菌性髄膜炎</b>	発熱、頭痛、意識障害、嘔吐	主に4日以内 (1～10日)	飛沫 接触	有効な治療を開始して 24時間経過するまで	病状により医師において 感染のおそれがないと 認められるまで		
第三種	<b>コレラ</b>	激しい水様性下痢、嘔吐	主に1～3日 (数時間～5日)	経口			
	さいきんせいせきり <b>細菌性赤痢</b>	発熱、腹痛、しぶり腹、 膿粘血便、下痢、嘔吐	主に1～3日 (1～7日)	経口			
	ちちかくしんけつけつ <b>腸管出血性大腸菌</b> <b>感染症(O-157等)</b>	水様下痢便、腹痛、血便	10時間～6日	接触 経口	便中に菌が排出されて いる間		溶血性尿毒症候群や脳症の合併症に注意
	ちよう <b>腸チフス</b>	持続する発熱、発しん	7～14日 (3～60日)	経口		病状により医師において 感染のおそれがないと 認められるまで	
	<b>パラチフス</b>	持続する発熱、発しん	1～10日	経口			
	りゅうこうせいかくけつまくわん <b>流行性角結膜炎</b> <b>(はやり目)</b>	結膜充血、まぶたの腫れ、 異物感、流涙、めやに	2～14日	接触	ウイルス排出は、初期数日が 最も多いが、その後、便からは 数週間～数か月続くこともある		角膜炎後の角膜混濁により視力障害を残す可能性がある ※医師の許可があるまで、プールには入らない ※タオル等を共用しない
	きせつしんけつけつ <b>急性出血性結膜炎</b> <b>(アポ病)</b>	結膜出血、結膜充血、 まぶたの腫れ、異物感、 流涙、めやに	1～3日	接触	ウイルス排出は、 結膜擦過物から1～2週間		※医師の許可があるまで、プールには入らない ※タオル等を共用しない
その他の感染症(第三種の感染症として扱う場合もある主な感染症の例)	かんせんせいじょう <b>感染性胃腸炎</b> <b>ノロウイルス感染症</b> <b>ロタウイルス感染症等</b>	嘔吐、下痢	ノロウイルス: 12～48時間 ロタウイルス: 1～3日	飛沫 接触 経口	感染力は急性期が最も強く、 便中にウイルスが3週間以上 排出されることもある		脱水に注意 下痢・嘔吐症状が軽減した後、全身状態の良い者は 登校可能(排便後の始末、手洗いを励行)
	かんせんしやう <b>マイコプラズマ感染症</b>	咳、発熱、頭痛	主に2～3週間 (1～4週間)	飛沫 接触	症状のある間がピークで あるが、保菌は数週～ 数か月間持続する		症状が改善し、全身状態の良い者は登校可能
	ようれんきんかんせんしやう <b>溶連菌感染症</b>	発熱、のどの痛み・腫れ、 ぶつぶつのある赤い舌、発しん とびひ(伝染性膿痂疹の欄を参照)	2～5日	飛沫 接触	適切な抗菌薬療法開始後 24時間以内に感染力は 消失する	条件によっては 出席停止が必要と 考えられる感染症 の例	リウマチ熱や腎炎の合併症に注意 適切な抗菌薬療法開始後24時間以内に感染力は 消失するため、それ以降登校可能
	でんせんせいこうはん <b>伝染性紅斑</b> <b>(りんご病)</b>	かぜ様症状の後に、両頬と 手足に網目状の赤い発しん	4～14日 (4～21日)	主として 飛沫	かぜ様症状出現から 発しんが出現するまで		発しんのみで全身状態の良い者は登校可能
	かんせんしやう <b>RSウイルス感染症</b>	発熱、鼻汁、咳、 「ゼイゼイ」「ヒューヒュー」という 呼吸音	4～6日 (2～8日)	飛沫 接触			発熱・咳などの症状が安定し、全身状態の良い者は 登校可能(手洗いを励行)
	てあしくちびやう <b>手足口病</b>	発熱(1～3日)、 口内に水疱ができ痛み、 水疱は手足やお尻にもできる	3～6日	飛沫 接触 経口	ウイルス排出は、 咳や鼻汁から1～2週間、 便からは数週～数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能 (手洗い(特に排便後)を励行)
	<b>ヘルパンギーナ</b>	突然の発熱(39℃以上)、 口内に水疱・潰瘍ができ痛み	3～6日	飛沫 接触 経口	ウイルス排出は、 咳や鼻汁から1～2週間、 便からは数週～数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能 (手洗い(特に排便後)を励行)
	でんせんせいこうはん <b>伝染性膿痂疹</b> <b>(とびひ)</b>	水疱や膿疱(うみ)が破れて ただれ、かさぶたをつくる かゆみ	2～10日 (長期の場合も ある)	接触	かさぶたにも感染力が 残っている		※医師の許可があるまで、プールには入らない ※傷に直接触らない
	でんせんせいなんぞくしや <b>伝染性軟属腫</b> <b>(水いぼ)</b>	2～5mmのいぼが、からだ・ 手足にできる	主に2～7週 (6か月ものこ もある)	接触	回復までに6～12か月、 時に数年を要する	通常出席停止の 必要はないと 考えられる感染症 の例	プールや水泳で、直接肌が触れると感染するため注意 ※タオル・ビート板等を共用しない
	<b>アタマジラミ症</b>	一般に無症状、 吸血部位にかゆみ	産卵からふ化まで : 10～14日 成虫まで: 2週間	接触	シラミと卵がいなくなるまで		発見した場合、学校薬剤師の指示のもと、 早期駆除を行う ※タオル・くし・帽子等を共用しない